

## 読解力向上を目指して①

～リーディングスキルの視点を入れた授業改善～

福島県では昨年度に引き続き、「AI時代を生き抜く読解力向上事業」に取り組んでいます。令和3年度は、県南・会津・相双地区が指定を受け、県南域内では、塙中学校区が研究モデル校として幼小中の連携を図りながら研究に取り組んでいます。今年度は、塙小学校が研究センター校として研究公開を行いました。先日行われた学力向上担当者等研修会でも実践事例を大変分かりやすく紹介していただきました。今回は、その塙小学校の実践を掲載します。

### (1) 研究公開の授業実践から

#### 1 学年国語科「じどう車くらべ」の実践【イメージ同定】

本時の目標：はしご車の「しごと」と「つくり」を表す言葉に着目しその関係を捉え、必要な情報を取り出すことができる。

はしご車の「しごと」を確認 → アイの「つくり」を1つ選択

A 高い所の火を消す イ 高い所で逃げ遅れた人を助ける

T: アイそれぞれの「しごと」にぴったりの「つくり」はどれかな？

C: 「タイヤがある」だよ。だってタイヤがないと走れないもん。

C: でもタイヤはトラックにもついてたよ。大きなタイヤ。

C: わたしは、「高い所」で仕事をするから、「はしごがある」だと思うな。

C: 「かごがついている」も大事。だってかごがないと逃げ遅れた人が乗れない。



「～するために」を意識させるための発問

多くの情報（つくり）からアイの「しごと」をするために必要な情報を選び出す力をつける課題の設定



#### 4 学年算数科「並行と四角形」の実践【イメージ同定】

本時の目標：平行四辺形の構成要素や辺の位置関係を基に平行四辺形の作図の方法を考え、かくことができる。

子どもの「言葉」と「図」の対応を明確にするための発問（結び付け）

提示した平行四辺形と同じ平行四辺形をかき、頂点Dの位置をどのようにして決めればよいかを考える活動

T: 三角定規をどうして右に動かしたのかな？

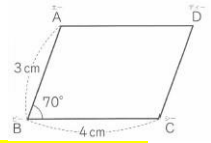
C: 辺DCを書くため。 C: 同じ長さにしたいから。

T: どこどこを同じ長さにしたいの？ 図のどこどこか、指でなぞってみて。（全員で）

C: (図のABとDCをなぞりながら) このABとDC。

T: 同じ長さにするのは、そこだけでいいのかな？

C: そこだけだとだめ。 C: ADとBCも同じが長さになるはず！



「作図手順の暗記」ではなく、「(平行四辺形の)性質が分かってかける子」を育てるための話合い

#### 6 学年算数科「比例と反比例」の実践【イメージ同定】

本時の目標：(数えきれない画用紙の枚数と画用紙の重さに着目して) 比例関係を見出し、問題を解決することができる。

比例関係と見なすことができることはないか考えさせる板書と発問

比例関係を見出して、どんな結果が出たら解決に至るのか解決の見通しをもつための話合い

(導入、写真等を活用して、問題場面の理解を図ってから…)

C: 全体の重さ ÷ 1枚の重さにすればいいんじゃないかな。

(問題文にある数量を表的に板書する)

C: 前にストローの学習をしたとき、1本あたりの重さを計れなかったよ。

T: だったら、何枚の情報ほしいのかな。

C: 10枚は？ C: (今ある紙の) 全体の重さ。

T: なるほど。あと何と比べればいいのか？

この重さと？



枚数	1	10	300
重さ	×		

## (2) 研究公開以外の授業実践から

### 3 学年算数科「かけ算の筆算 (1)」の実践【イメージ同定】

本時の目標：数の構成や既習の乗法九九などに着目し、具体物や図、式を用いて計算の仕方を考え、説明できる。

T:  $23 \times 3$  を計算すると、だいたいいくつになるかな？

C: 23 を 20 と考えると 60 ぐらい。 C: 60 よりも大きくなる。

T: じゃあ、どうやって計算するか、計算の仕方を考えよう。

C:  $23 + 23 + 23$  C: 図にすると…… C: お金の図をかいて考える。

C: 23 を 20 と 3 に分けて  $20 \times 3$ 、 $3 \times 3$  に分けて考える。

$$20 \times 3 = 60 \quad 3 \times 3 = 9 \quad 60 + 9 = 69$$

T: どうしたら計算できたかな。友だちの考えと似ているところはどこかな。

C: お金の図と、20 と 3 に分けて計算する方法は似てるな。



具体物や図、式など  
様々な手段を用いること  
で既習事項から計算  
の仕方を思考させる場  
を設定

### 5 学年理科「ふりこ」の実践【イメージ同定】

本時の目標：ふりこの1往復する時間はおもりの重さによって変化しないことを導きだすことができる。

実験結果を表に整理し、そこからどんなことがいえるのか、表に表れていることを言語化

T: 実験結果から考えられることは何か？ (実験結果を表にまとめたものを確認)

C: おもりの重さを重くしても、1往復する時間は変わらないよ。

C: 重さによって時間は少し違っているけど、確かにそうだね。

T: その時間の差は、気にしなくていいの？

C: だからおもりの重さが変わってもふりこが1往復する時間は変わらない。

C: おもりの重さとふりこが1往復する時間は関係がないんだよ。



### 6 学年国語「やまなし」の実践【推論】

本時の目標：二枚の幻灯の比較から題名について考え、作品世界を捉えることができる。

T: 5月と12月を比べると違いは何か？

C: 5月はかわせみがいて、12月はやまなしが出ていたよ。

C: 5月にはかの兄弟がおびえていたけど、12月は喜んでいた。

T: おびえていた、喜んでいたって言ったけどどこからそれはわかるの？

C: 教科書の〇ページに「ぶるぶる震えている」って書いてあったから。

T: 「喜んでいた」は？ 安心しているとか書いてあった？

C: そうは書いていないけど、「踊るように」ってあって嬉しくないと思わないよ。



登場人物の心情について叙述に基づいて(根拠として)考え、自分の考えを整理し、より確かなものにするための問い返し

### 1 学年国語「うみのかくれんぼ」の実践【イメージ同定】

本時の目標：写真と文を照応させながら、もくずしよいの隠れ方を読みとることができる。

T: もくずしよいの「からだじまん」は、どんなことかな。

C: 大きなはさみがあることだよ。

C: はさみでかいそうを切って体にはるんだよ。

T: どうやって体にはるの？ もくずしよいになってやってみせて。

C: (かいそうを切り、体にはるのに大きなハサミでないと届かないことを実感)

T: でもなんでわざわざかいそうなんてはるの？ そのままでいいじゃない？

C: だめだよ。敵に見つかったら。

C: そうだよ。敵に見つかったら食べられちゃうからへんしんするんだよ。



「もくずしよい」の隠れ方である「へんしんする」という言葉に着目させるための動作化や問い返し

国語科、算数科を中心にしながら理科、英語科など全員が一丸となって授業実践を行っていただきました。

素晴らしい研究実践をありがとうございました。(令和3年度読解力向上事業実践報告書の一部抜粋)

下のワークシートは、読解力向上のための「授業づくりワークシート」になります。(第4学年算数科 「垂直、平行と四角形」の実践から) 授業づくりの一助として参考にいただければと思います。

**【授業づくりワークシートの項目】**

- ①本時の目標を達成するためにおさえない言葉・内容
- ②子どもたちにとって親密度の低い言葉
- ③考えを深める話合いでの手立て
- ④RSの視点での手立て



授業づくりワークシート			
教科	算数科	教科書	東京書籍
単元名	垂直、平行と四角形		ページ数
			32ページ

本時の目標を達成するためにおさえない言葉・内容

- ・平行四辺形の定義
- ・平行四辺形の性質
- ・平行のかき方(三角定規の動かし方)
- ・コンパスを使って、辺の長さをはかる。
- ・分度器を使って、角をはかる。

子供たちにとって親密度の低い言葉

- ・向かい合った辺が平行
- ・向かい合った辺の長さが等しい
- ・向かい合った角の大きさが等しい
- ・辺○○
- ・角□

考えを深める話合いの手立て(発問や板書)

発問: どのこと一対象が分かるように問い返す  
 どうして → 平行四辺形の特徴に着目するように問い返す

板書: 平行な辺や同じ長さが分かるようにする  
 ; 作図の手順と平行四辺形の特徴が対比していることが分かるようにする

RSの視点での手立て

- ・教科書の図形を見て、分かることや分からないことを表現させる。(イメージ同定)
- ・作図の手順と平行四辺形の特徴が対応していることが分かるよう、構造的に板書する。(具体例同定)
- ・作図した図形が平行四辺形になっているかを、定義文を基にペアで確認する。(具体例同定)

**ワークシートを作成した埴小の先生方の声**

- あらかじめつまずきを想定することで、その支援を考えることができた。
- 授業でおさえるべきポイントを意識して授業に臨むことができた。
- 各教科・単元で繰り返し使わせたい言葉を教師が意識することで、学習の定着につなげることができた。

※ワークシートを積み重ねていくことで、翌年の授業者も子どもをつまずきを先取りして授業を実践することが可能になるという利点も考えられます。

**すぐに始められるリーディングスキルのススメ**

リーディングスキルとは、「基礎的・汎用的読解力であり、教科書や新聞、マニュアルや契約書などのドキュメントの意味および意図を迅速かつ正確に読み取る力」であるとされています。(「Alvs 教科書が読めない子どもたち」 著者 教育のための新井紀子氏 )

**リーディングスキル(6分野7項目の視点)**

- ①係り受け解析
- ②照応解決
- ③同義文判定
- ④推論
- ⑤イメージ同定
- ⑥具体例同定(辞書・理数)

上記の視点をもって授業者が教科書を読んだり、授業を組み立てたりすることで、児童生徒の教科書の内容理解や語彙力の向上につながっていくと考えられています。是非実践したい一方で、「視点をどのように取り入れていけばいいかわからない」「語句一つ一つに拘らせる重要性は理解できるが、授業が進まなくなる」などの声も聞かれます。上記の視点以外にも「すぐにでも取り入れられるリーディングスキル」の1つをご紹介します。

**【教師の意図等が伝わるような表現(明示的な指示)】**

※令和2年度リーディングスキル実践事例集より

56+67+33 の計算のしかたを工夫しましょう。

「工夫する」ってどういうことだろう？  
なぜ「工夫する」必要があるのかな？

56+67+33 はどのように計算すれば暗算できますか？

「計算のきまり」を使うと暗算できるな。そうすると「簡単」にできるな。

「きちんと」「ちゃんと」「工夫して」等、捉えが一意に決まらない表現は避け、意図や目標を明確に言語化することで児童生徒は「何をどのようにすればよいか」が明確になります。普段の授業の中で児童生徒に対して行っている指示を具体的にすることは、子どもの主体的な学びにつながっていくと思います。